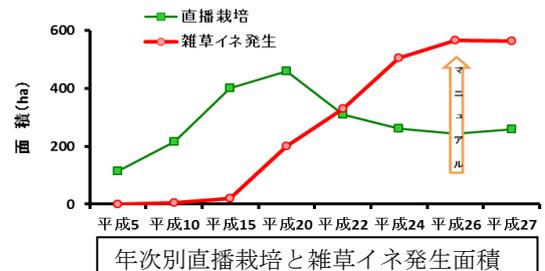


平成 28 年度新規課題

研究区分	農食研究推進事業	試験期間	H28～30
課題名	水稲直播栽培における雑草イネ・漏生イネの防除体系の確立と実用化		
関連の重要研究課題名	Ⅱ 土地利用型農業における省力・低コスト安定生産技術の開発 栽培環境等の変化に対応した普通作物の安定生産技術の開発		
主担当試験場・部	農業試験場・作物部 共同機関：農研機構中央農研・九沖研、植調協会、信大、宮城県、茨城県、(株)デリカ		

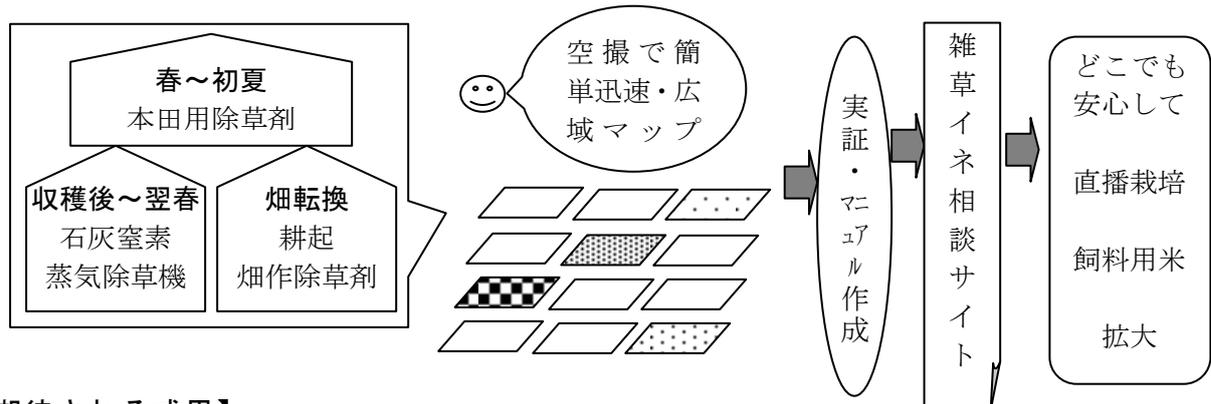
【現状と課題】

水稲直播栽培については、主食用米の低コスト生産技術として重要な技術として位置づけられているが、本県では最大期（H16年）に比べ半減している。その減少要因は雑草イネの増大で、発生面積は500haを超え急速に拡大した。また、雑草イネは、全国・世界にも発生が拡大する傾向にある。このため、農試では「雑草イネ総合防除対策マニュアル」（H26年）を策定し、県雑草イネ対策チームの連携のもと対策を講じている。しかし、このマニュアルは、移植栽培向けの防除対策であり、直播栽培での雑草イネに対する対策技術は確立されていない状況。そこで、直播栽培での雑草イネ（飼料用米由来の漏生イネ含む）の対策として、複数の技術を組合せた総合防除体系を確立し、安定した直播栽培や飼料用米栽培の実現を図り、収益性の高い水田営農を目指す。



【試験研究計画】

- 1 水稲の非作付け期間における脱粒種子を死滅させる技術の開発（長野、宮城、茨城）
 - ・水稲収穫後の石灰窒素散布・蒸気除草機処理・畑転換の組合せた雑草イネの種子死滅技術
- 2 水稲作付け期間中における除草剤体系化技術の開発（植調協会、九沖研）
 - ・直播後の水稲種子に作用せず雑草イネに有効となる除草剤活用や体系処理の開発
- 3 雑草イネ発生分布作成のためのドローンによる省力マップ化技術開発（信大）
 - ・ドローンの空撮画像の解析およびマップ化技術の開発
- 4 直播栽培用の防除マニュアルの現地実証・全国相談サイトの開設（中央農研、上記3県）
 - ・「雑草イネ・漏生イネ徹底防除マニュアル」の現地実証とweb公開



【期待される成果】

- 1 雑草イネの多い地域での直播栽培の導入と移植栽培との組合せによる米作農家・大規模・集落営農組織のコスト削減や作期拡大による収益性の向上。
- 2 脱粒しやすい多収性専用品種を活用した水田での飼料生産による有効活用と、移植・直播・飼料用米栽培を組合せた作業分散による規模拡大の推進